プロジェクトの進め方

TAKAGI VISION 2030のあり方

「従業員みんなで作るビジョン」であること

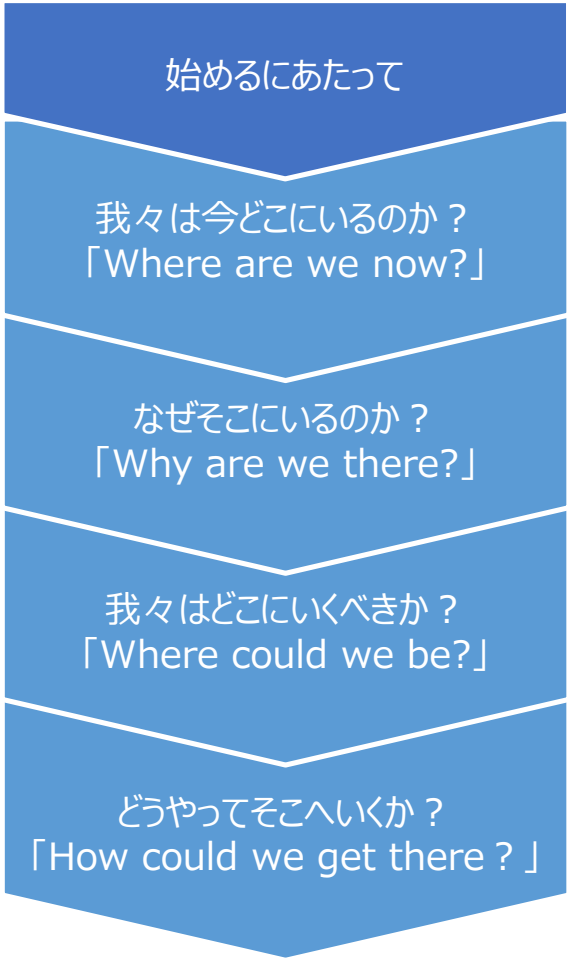
ビジョンは、「ただ策定すればよい」ものではなく、「社内に浸透してこそ価値がある」ものとされています。

そこで、経営者が決定したものを情報としてお伝えするのではなく、現場で働く皆さんにビジョン策定に参画してもらい、高木工業の従業員が主体となってビジョンを作ってまいります。

また、長期ビジョンを作るためには、実際にその時代を生きる世代の従業員たちの声が最も重要です。

従業員の皆さんの想いをまとめて、より良いビジョンを作り上げましょう。

TAKAGI VISION 2030 策定プロジェクトの進め方



- ビジョンは何のために創るのか？
- 目的を満たすよいビジョンとはどのようなものか？

- 高木工業の歴史を振り返る(変曲点はいつの何にあったのか、それはどうして生まれたのか？)
- 高木工業の今の姿を尋ねる(経営陣、従業員、グループ、顧客、取引先等)

- どう思われていたいか？(顧客、社会、グループ、従業員、入社希望者、卒業者)
- そのために必要な具体的な姿
- 前提となる経営環境の変化を見立てる(PEST、4C+M 等)
  ※ SWOTを実施するなら競合も併せて行いたい
- 事業ドメイン・ポートフォリオの明確化
- 企業規模を想定する
- 変革の骨子、基本方針を定める
- ビジョン、ミッション、バリューを定義する

TAKAGI VISION 2030 プロジェクトマナー

- ✓ 自らの意見を持たない単なる評論家は禁止
- ✓ テーマに集中して話す、テーマに集中して聴く（外れたら駐車場（パーキングロット）へ）
- ✓ 日常の自分は棚上げして話す
- ✓ 自分の思いや考えを率直に話す（証拠は不要）
- ✓ 断定的な言い方をしない（決めつけない）
- ✓ 空中戦ではなく必ず可視化（模造紙/ポストイットに記述）を行う
- ✓ 受け狙いのみの発言は禁止
- ✓ 興奮したり、感情的に述べたりしない（感情を語ってもかまわない）
- ✓ 相手の話をありのままに聴く
- ✓ 相手の話をさえぎらない
- ✓ 相手の立場になって聴く
- ✓ 相手の話の善し悪しを判断しない
- ✓ 相手の発言の背景をともに考える姿勢で聴く